

4S 参加報告

2022年5月31日



葛岡 成樹



目次

概要	1
感想・分析	2
主なプレゼンテーション・議論	2
(1) ポルトガルの観測衛星コンステレーション計画	2
(2) その他気になった講演	2
ちょっと一言	3

概要

欧州宇宙庁 ESA とフランス国立宇宙研究センター-CNES 主催の 4S シンポジウムが 2022 年 5 月 16 日から 20 日まで、ポルトガル南端の地中海沿岸 Algarve 地方にあるリゾート地、Vilamoura にある the Tivoli Marina Vilamoura Hotel で開催された。4S とは、Small Satellites Systems and Services の意味である。

もともとのこのシンポジウムは 2 年に一度開催されており、筆者も 2020 年に参加する予定ではあったものの COVID-19 のために 2020 年は中止となった。このため筆者としてこのシンポジウムに参加するのは今回初めてとなる。

主催者に聞いたところ参加人員は約 450 名程度、展示は 70 社程度のこじんまり



としたものであった。

感想・分析

一言で言えば、このシンポジウムは米国ユタ州で開催される SmallSat Conference の小型版、ヨーロッパ版と言えるだろう。たしかに衛星本体だけではなく、そのサブシステム・コンポーネント、打上、さらにはデータ利用サービスまで扱う範囲は広い。とくに今回のシンポジウムのメインテーマが“Information Made in Space”であり、同名のセッションでは地球観測を中心とした衛星データ利用について多数の報告があった。

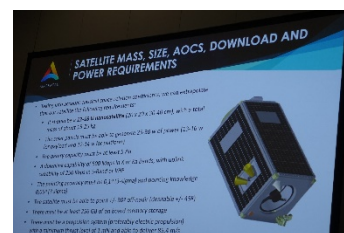
またどうしてもポルトガルの宇宙機関・企業が目にはつくものの、参加者は一応全ヨーロッパから集まっている。ただし米国の SmallSat Conference に比べて圧倒的な違いは、このシンポジウムには軍・安全保障の姿が見えないことである。SmallSat Conference では必ず宇宙軍のトップのプレゼンテーションがあり、DARPA を始めとした軍向けの衛星開発の報告も含まれるが、4S シンポジウムには軍・安全保障向けの話はなかった。

逆に 4S シンポジウムでは ESA, CNES を始めとした各国の宇宙機関や研究機関の発表が大きな比重を占めていた。民間も展示を含めて多数参加してはいたものの、自ら衛星プログラムを立ち上げてという米国流の企業は少なく、各国宇宙機関とともにシステムを開発する、あるいはサブシステム・コンポーネントを中心とした内容であった。

主なプレゼンテーション・議論

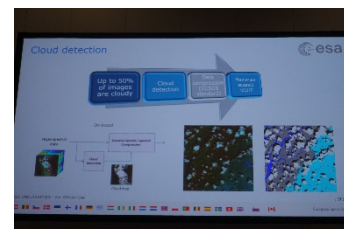
(1) ポルトガルの観測衛星コンステレーション計画

<以下略>



(2) その他気になった講演

<以下略>



ちょっと一言

ポルトガルではシーフードが豊富で、しかも筆者の好みに合う食事が多い。というわけでこのコーナーの記述も米国出張に比べてどうしても力が入ってしまう。イワシの塩焼きは日本で良く食べるイワシの塩焼きと全く同じ、出来上がりにオリーブオイルを掛けるのがポルトガル風。

今回はタコのポルトガル風 (Polvo a Lagareiro) を紹



介する。タコの足を3~4本をそのまま切らずに、丸ごとのニンニクと香草を入れてオリーブオイルとともにオーブンで煮込んだものである。皮付きのままの小さなジャガイモも一緒にオイルで煮込んであり、鉄の鍋でぐつぐつ音がする状態で提供される。スペインのタパスとして有名なアヒージョのダイナミックなバージョンともいえるだろう。辛みのある唐辛子は入っていなかったのはちょっとアヒージョと違う所か。

タコの足は丁寧な下茹でをしているのか思いっきり柔らかく、ナイフを入れると簡単に切れる。吸盤がついたまま丸ごとのタコの足を嫌がる人も多いというが、ポルトガル人と日本人にとっては好むところだろう。

合わせるのはもちろんよく冷えたポルトガルの白ワイン。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<https://sat-biznet.com/contact-us/>

葛岡 成樹

Euroconsult

ユーロコンサル日本事務所

<https://www.euroconsult-ec.com/contact-us/>

葛岡 成樹